
Painkiller チンツウザイ

並盛りライス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Painkiller チンツウザイ

【ZPDF】

Z6834A

【作者名】 並盛りライス

【あらすじ】

僕は頭が良くない、知識をひけらかす辻山の事が嫌いだ。そして
そんな僕にある転機が…

僕は、辻山のことが嫌いだつた。

自分の知識を披露することを最大の喜びとしていて、それはいつも、僕に対して行われた。

僕が、この上なく無知なことをあざけ笑い、自分がいかに知識を持つているのかを喋るのだ。

そういう時の彼の目は、悲哀に満ちていて僕のことを哀れむのだ。

それが堪らなく嫌で、僕は時々、胃の中のものを全て吐き出さなければならなかつた。

僕には、知識で辻山を圧倒することが出来ないことはよく分かつていたし、

彼が、博識な知識人だということも認めていた。

でも、僕は辻山が嫌いだつた。

その日も、僕は朝から胃がムカムカしていて、出勤する前に薬屋に寄つた。

しかし、いつも胃薬を買っているドラッグストアは改裝中で、仕方なく近所の薬薬局に開くのを待つて入つた。

急いでいたが、なかなか店頭の薬が見付からず、店内を見て回っていると、妙な薬が見付かった。

「頭が良くなる」

といつ、いかにもなネーミングで、売れていますシールが貼つてあった。

僕は迷わずこの薬を買つた。

さっそく、いつも薬を飲むために常備しているミネラルウォーターで、薬を飲み下した。

しばらくすると、みるみる頭が冴えてきて、頭の中がすっきりと明瞭になつていつた。

その日の僕は何もかも上手くいつたし、つまらないミスもしなかつた。

ただ一つ誤算だったのは、辻山に薬を見せたことだった。

彼は、僕を哀れんだような目で見て言つた。

「これは、ただの頭痛薬だ。」

僕はさりげなく辻山の事を嫌いになつた。

最近は頭も痛くなつてきて、頭痛薬を常備している。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6834a/>

Painkiller チンツウザイ

2010年11月5日01時48分発行